

独立行政法人国立国語研究所「病院の言葉」委員会（全体会） 第3回  
議事要旨

1. 日時 平成20年9月12日（金）15：00～17：30
2. 場所 如水会館 如水コンファレンス
3. 出席者 杉戸委員長，有森委員，生坂委員，稲葉委員，齋藤委員，柴田委員，  
関根委員，土屋委員，鳥飼委員，宝住委員，村田委員，矢吹委員，  
吉山委員，和田委員，徳重委員，相澤委員，吉岡委員，田中委員
4. 会議の概要
  - (1) 第2回全体会の会議録・議事要旨の確認
  - (2) 第2回全体会以後の進捗状況の報告
    - ・第2回全体会以後の実務委員会・作業部会等での検討・作業の進捗状況について，報告があった。
    - ・今後のスケジュール案について報告があった。
  - (3) 「病院の言葉を分かりやすくする提案」（中間報告）について
    - ・「病院の言葉を分かりやすくする提案」（中間報告）について，次のような構成の原案が示され，討議を行った。
      - I. 背景と目的
      - II. 「病院の言葉」を分かりやすくする工夫の類型
      - III. 類型別の工夫例
        - 類型A 日常語を使って
          - 「イレウス」「エビデンス」「寛解」など13語
        - 類型B 明確な説明を
          - B-（1）何を指すかを
            - 「インスリン」「ウイルス」「炎症」など15語
          - B-（2）もう一歩踏み込んで
            - 「悪性腫瘍」「うっ血」「うつ病」など18語
          - B-（3）混同の回避を
            - 「合併症」「ショック」「貧血」の3語
        - 類型C 重要な新概念の普及を
          - 「インフォームドコンセント」「QOL」「緩和ケア」など11語
      - コラム：患者の不安を軽減する言葉遣い

#### IV. 検討の経過

#### V. 資料

#### VI. この提案で取り上げた語の一覧（索引）

#### (4) 普及方法の検討

- ・「病院の言葉を分かりやすくする提案」（中間報告）の普及方法，意見公募の方法について，討議を行った。

### 5. 会議での主な意見

#### ① 「病院の言葉を分かりやすくする提案」（中間発表）の内容について

##### ○「I. 背景と目的」について

- ・ 「背景と目的」という表題は的確だろうか。各類型の表題のように，読み手の食いつきのよい表現にしたい。何の背景と目的であるかをきちんと示した表題にすべきである。
- ・ いきなり「自己責任の時代」と始まるのは違和感がある。まず，病院の言葉が分かりにくいことを述べて，その原因を分析し，国語研究所がそれに対する指針を出す，という構成にするのが受け入れやすいのではないか。
- ・ 病院の言葉の分かりにくさ，その原因，問題の類型を書き，次いで自己責任と専門分化の時代背景，医療の分野の重要性，国語研の役割，そして医療者が行うべき工夫という順序で記すのがよいのではないか。
- ・ 「自己責任」というのは，患者に向けた言葉ではなく，医療関係者に向けた言葉である。これからは患者が自己責任で選択を行う時代であるので，よく説明して分かってもらう必要がある，ということを冒頭で明確に書くのがよい。
- ・ 基本的な言葉の認知率が低い，認知率と理解率の差が大きいという調査結果は，医療者が分かりやすい説明をしていないこと，患者は理解した上での意志決定をしていないことを示している。この事実をしっかりと指摘して，患者に言葉を知り理解するように促すのは医療者の義務であること，患者にとっても言葉を知り意味を理解することは義務であることを，強く示したい。
- ・ 医師から出てくる意見として，「時間がない」「このようなことまで患者は知らなくてよい」「患者に余計な心配をさせることはない」「患者は言っても理解できない」などが予測される。すべてに対処できるとは思わないが，それらにどう対処するかの方角性を示す必要がある。医療界の変化につなげるものとして，そのためのディスカッションをしておきたい。
- ・ この提案が，医療者側が考えるきっかけとなることを期待して，患者に説明して

分からせることが医師の役割である，理解を得た上での患者の自己責任であるということを書きちゃんと書いた方がよい。

### ○提案の対象について

- ・ 医療者を対象とした提案ということだが，患者が読むことも十分に想定される。だれが読んでも分かるように書くことが大事である。
- ・ 医療者に必要な情報と患者に必要な情報の両方が記述されているが，二つを色で分けるような工夫をしてはどうだろうか。
- ・ 一般の人にも分かる記述をすることは重要だが，出発点は，医療に携わる人の言葉が分かりにくいから何とかしてほしいということであった。全体としては，医療者にこのように分かりやすく言ってほしいという姿勢を貫くのがよい。
- ・ 医師と患者の間だけで利用されるものでなく，医学部や看護学校の学生の教科書にもなるようなものを作る視野を持ちたい。
- ・ 中間報告（10月）と最終報告（3月）の報告書と，市販本である手引（3月）を作成する予定であり，報告書は医療者対象とし，手引は医療者にも患者にも使ってもらえるものを目指すようにしたい。

### ○類型の在り方について

- ・ 類型Aに属する語について，使わないようにしたいという記述と，使う場合の効果的な説明方法が混在していて，分かりにくい。類型Aの言葉について，委員会の姿勢を明確にしたい。
- ・ 類型Aは基本的には，使わない言葉としたいが，患者の状況や場面によってはその語を使う必要がある場合も想定され，その場合の説明方法も記している。この点は混乱を招かないようにしたい。
- ・ 類型B（1）の「何を指すかを」という名称は分かりにくい。「正しい意味を」などとするのがよい。
- ・ 全般に，各類型のネーミングにもっと工夫がほしい。各類型の見出しのレベルでその趣旨が伝わると，提案の中身も分かりやすくなるだろう。
- ・ 類型Cについては，なぜ普及が必要かという理由をもっと前面に出して書くのも一案ではないか。また，普及が必要な背景などについての記述をもっと充実させる必要があるのではないか。
- ・ 類型Cは，AとBとは異質であるので，Q&Aなどを取り入れるなど，形式を変えてはどうか。
- ・ 類型Cの語について，「外来語言い換え提案」のときのように言い換え語によって普及させるのか，言い換えを行わずに元の語形のままで普及を考えるのか，確認をしておきたい。例えば「クリニカルパス」を「パス」の語形で普及させるの

は抵抗がある。

- ・ 「クリニカルパス」という存在は重要であるが、言葉は「診療予定表（クリニカルパス）」とする方がよりよいのではないかと感じる。
- ・ 各類型は、患者に伝わらない理由と、分かりやすくする工夫の方法とによって導き出されたものであるが、表題は工夫の方法によって名付けられている。伝わらない理由も、表題に含めることも考えられる。
- ・ 伝わらない理由の方に挙げてある「患者の心理的負担」については、工夫の方法では類型化されていないが、取り上げる語の中には患者の不安への配慮が必要なものがあるので、それについての記述は必要である。

## ② 「病院の言葉を分かりやすくする提案」（中間発表）の普及方法、意見公募の方法について

- ・ 中間報告書は、病院だけでなく、医療関係の教育機関にも送りたい。
- ・ 中間報告書送付の目的が意見を求めることであるとすれば、きちんと意見を返してくれそうなところに絞って送るのが、無駄がなく効果的であろう。
- ・ ホームページには意見公募を行っていることをしっかりと表示したい。
- ・ 意見公募結果や、アンケート結果に基づいて、最終報告の時点で内容を根本から見直す時間はないであろうが、部分的な改良はできると思う。また、アンケート結果を最終報告に掲載する意義はあると思う。

以上